

令和 6 年度（2024 年度）事業報告書

本財団で行う研修及び研究

本財団は、設立以来専ら精神分析の研修、研究事業を実施することによりわが国の精神保健の向上のため努力し、成果を上げています。本年度もこれらの方針を継続し、下記事業を計画し、実施しました。

医師・臨床心理士等に対する精神分析および精神分析療法に関する研修事業として、通年セミナー15件（含ワークショップ3件、新規セミナー1件）、単発セミナー8件（含新規セミナー2件）、土居健郎生誕100周年記念シンポジウムおよび出版・広報事業1件、助成事業1件を実施しました。

I. 研修事業

1. 通年セミナー

（1）小寺精神分析的セラピーケースセミナー（第5期）

2020年度より開始した精神分析的セラピーのケースセミナーです。日本でよく行われている主に週一、二回の成人の精神分析的セラピーのケースを、ある程度実績を持つ中堅のセラピストの方々にご提示願ひ、それに対してシニアの臨床家がコメントをし、フロアと討論します。

ファシリテーターは藤山直樹が務めました。

いま現実にはどのような精神分析的なケースが日本で展開しているのかに触れながら、参加者の臨床実践や訓練に何らかの示唆やヒントを生むことがねらいでした。ハイブリッド設定（現地開催とウェビナーの併用）で行うので、遠隔地の方々も参加可能です。守秘義務をもつ臨床家だけ参加できるようにしました。なお守秘の点から、身分証明書と守秘の誓約書を提出いただきました。

対 象：精神分析に関心があり、臨床実践を行っており、守秘義務を負っている方。

開催期間：2024年5月～2025年3月 第3土曜日原則、午後7時～9時、全10回

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター/TKP新宿西口カンファレンスセンター/

Zoom Webinar ハイブリッド、3月15日のみ小寺財団セミナールームで開催。

参 加 費：50,000 円

参加人数：91名（定員100名）

運営方法：毎回、中堅のセラピストに症例提示をしていただき、シニアの先生方に討論をお願いしました。司会は、藤山直樹が担当しました。

企画及び担当：藤山直樹

日 時	コメンテーター	症例提示者
5 月 18 日	池田暁史	小澤和輝
6 月 15 日	十川幸司	永田悠芽
7 月 20 日	藤内栄太	豊田佳子
9 月 21 日	岡野憲一郎	大塚由希
10 月 19 日	古賀靖彦	山崎孝明
11 月 16 日	高野 晶	坂井俊之
12 月 21 日	相田信男	三浦聡太郎
1 月 18 日	松木邦裕	茂市耕平
2 月 15 日	吾妻 壮	山口貴史
3 月 15 日	奥寺 崇	尹 成秀

(2) 精神分析的心理療法セミナー (第 16 回)

目 的：原則として週一回の頻度で行われる精神分析的心理療法についての事例検討会です。

その臨床実践の中で日々経験している難しさや限界、臨床的成果、さらには精神分析的に考えることの大切さと手応えなどを皆で確認し、共有することを主たる目的としました。事例検討を通して、精神分析的な理解と技法のさらなる深化を図ることをねらいとしました。本セミナーは今年度をもって終了となりました。

対 象：中堅以上の心理療法家で、十分な臨床経験と研修歴をお持ちの方。

助 言 者：岩倉拓、北村麻紀子、小尻与志乃、中村留貴子、深津千賀子、他

コーディネーター：北村麻紀子、小尻与志乃

開催期間：2024 年 4 月～2025 年 2 月

原則として、第一金曜日、午後 7 時 30 分～9 時 30 分 全 11 回

4/5、6/7、7/5、8/12、10/4、11/1、12/6、1/13、2/7 (下線は 2 コマ)

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参 加 費：60,000 円

参加人数：15 名 (定員 13 名)

企 画 者：中村留貴子

担当委員：藤山直樹

(3) 体験グループセミナー（第30期）

目的：精神分析、力動的精神療法の方向付けを基本とした、グループダイナミックスの学習、自己理解の深化をワークショップ形式のグループ体験を通して得る機会の提供を目的としました。

対象：精神分析セミナー、精神分析的心理臨床セミナーならびにそれに相当するセミナーの受講者・修了者で、すでに精神療法の経験をもつ方を優先しました。
基本を2年コースと考えているので原則として2年目の参加者を優先しました。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：2024年5月～2025年3月、月1回

第4金曜日原則、午後7時～8時30分、全10回

5/24、6/28、7/26、9/27、10/25、11/22、12/27、1/24、2/28、3/28

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加費：50,000円

参加人数：23名（定員30名）

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

(4) グループ理論研究セミナー（第29期）

目的：精神分析、力動的医学を基礎におく集団精神療法の臨床または指導者の養成を、理論的学習、とりわけ事例をめぐるスーパービジョンを通して達成することを目的としました。

対象：何らかの臨床グループあるいはトレーニング・グループなど、実際グループに参加した経験のある、守秘義務をもつ専門家で、ことに事例提供が可能な方を原則としました。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：2024年5月～2025年3月、月1回

第2土曜日原則、午後2時～5時 全10回

5/11、6/1、7/13、9/14、10/12、11/16、12/14、1/11、2/8、3/8

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンターおよびTKP新宿西口カンファレンスセンター

9/14からは会場を小寺記念精神分析研究財団セミナールームに変更

会場とZoomによるハイブリッド開催。

参加費：60,000 円

参加人数：34 名（定員 40 名）

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

（５）組織で働くための精神分析 - そこでは生き延び貢献する術として - （第３期）

目 的：多くの臨床家が何らかの組織（医療、教育、福祉、司法など）に所属し、その中で臨床家として業務を行いながら、組織の一員として組織との間でさまざまな困難を体験しておられると思います。精神分析は、そんな臨床家が組織の中で生き抜き、同時に組織に貢献するために有効なツールになると考えますし、すでに実践しておられる方もいらっしゃると思います。そうした実践を持ち寄り、議論することを通して、参加者が組織で働くための精神分析について体験的に学べることを目指しました。

参加にあたっては必ずしも精神分析の知識は必要としません。

対 象：医師、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士をはじめとする、「組織で働くための精神分析」に興味をもっておられる、守秘義務のある臨床家の方々。

講 師：白波瀬丈一郎（精神科医：東京済生会中央病院）、三浦有紀（公認心理師・臨床心理士：東京済生会中央病院）

ゲストスピーカー：川上慎太郎（東京大学）、中西桃子（甲南大学）、岡田暁宜（慶應義塾大学）

日 程：2024 年 4 月～2024 年 11 月まで月 1 回 第 2 日曜日、全 7 回 （8 月休み）

4/14、5/12、6/9、7/14、9/8、10/13、11/17 午後 1 時 30 分～4 時 30 分

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム および Zoom によるハイブリッド開催

参加費：35,000 円

参加人数：18 名（定員 20 名）

企画者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

（６）組織で働くための精神分析 - そこでは生き延び貢献する術として

- アドバンストコース （第２期）

目 的：このセミナーでは、参加者から提供される素材をもとに、組織の活性化に貢献したり、

自らが組織の中で生き延びたりすることをめぐる困難やそのための工夫などについて議論しました。議論の補助線として精神分析、および力動精神医学の概念を用いますが、それ以上に「今-ここで」の体験を重視して、参加者全員で学びを作り出していました。その意味で、本セミナーは既存の知識を学ぶことに留まらず、みんなで新たな知を生み出すワークショップです。事例検討という形で、日々考えていること、困っていること、あがいていることなどの経験を議論しました。

対 象：2020 年度までの「臨床家のための、産業メンタルヘルスセミナー」、「臨床家のための産業メンタルヘルス実践セミナー」、2023 年度までの「組織で働くための精神分析ベーシック」修了者

講 師：白波瀬丈一郎（精神科医：東京済生会中央病院）、三浦有紀（公認心理師・臨床心理士：東京済生会中央病院）

開催日時：2023 年 4 月から 2024 年 2 月まで月 1 回 第 2 日曜日

全 10 回。8 月は休み。 午前 10 時～12 時

4/14、5/12、6/9、7/14、9/8、10/13、11/17、12/8、1/12、2/9

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム および Zoom によるハイブリッド開催

参 加 費：30,000 円

参加人数：18 名（定員 20 名）

企 画 者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

（7）精神分析志塾（第 9 期）

目 的：精神分析志塾は、臨床力の向上とともに、臨床での学びを創造的に表現する力を高めることを目指しました。中堅臨床家から成るクローズド・ワークショップの形態で学びました。なお、開講 9 年目になりました今年度は、従来の 3 部構成によるワークショップ形式で行いました。

対 象：中堅臨床家（臨床経験 7 年以上【院生修士時代を除く】、精神分析学会一般演題の発表経験を有す）

講 師：松木邦裕

開催期間：2024年4月～2025年3月 全11回 原則第1日曜日 (12月休み)

10：30～15：50 (休憩時間を含む)

4/7、5/12、6/2、7/14、8/4、9/1、9/29 (10月開催分)、11/3、1/5、2/2、3/2

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム、

5/12、7/14はTKP新宿西口、9/29はTKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加費：77,000円

参加人数：21名 (定員19名)

企画者：松木邦裕

担当委員：奥寺 崇

(8) 力動的理解にもとづくロールシャッハ解釈 (第4期)

目的：本セミナーでは、小此木・馬場による解釈技法を足がかりにしながら、ロールシャッハ事例を紐解いていきました。毎回、事例提供者のプレゼンテーションに対して、講師2名が見立てと理解を示しました。事例提供者を交えた3名の討論に、セミナー参加の皆様が加わることで、多角的な事例理解が展開することでしょう。このセミナーでは、「担当講師から正解を学ぶ」という非臨床的なスタンスから脱却し、臨床素材から自由に連想し、生きた対象者理解を得られることを目指しました。

開催日時：原則4日曜日 全6回 13時半～17時

5/26、6/23、7/28、8/25、9/29、10/27

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびZoomによるハイブリッド開催

講師：吉村聡・北村麻紀子・人見健太郎

対象：ロールシャッハ法の基本を取得している方 (経験年数は問わない)

参加費：36,000円

参加人数：30名 (定員50名) (現地参加定員12名を含む)

企画者：吉村聡

担当委員：吉村聡

(9) 「夫婦・家族面接に活かす精神療法」(第2期)

目的：日頃の臨床を行っていく上で、家族関係理解や夫婦関係理解は欠かせません。その関係性

と力動をどのようにとらえたらよいのか、ましてや実際に家族や夫婦が来談したときにどのように面接を展開したらよいのかを学ぶ機会は意外に少ないと考えられます。そこでこのセミナーでは家族療法理論や力動的理論を背景に持つ講師陣がこうした皆様の疑問にわかりやすく答えたり、ロールプレイでの実際の面接の持ち方を体験学習しました。

対 象：家族面接や夫婦面接を運用するための理論や枠組みについて学びたい方。その具体的な方法を身につけ実践に活かしたい臨床家の参加を歓迎いたします。大学院生も受講可。

講 師：中村伸一・岡野憲一郎・野末武義・渡辺俊之・岩井昌也・北島歩美

開催期間：2024年7月～2025年3月、月1回

第4土曜日原則、午後2時～5時 全8回

7/6、9/7、10/5、11/23、12/28、1/25、2/22、3/29

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームと Zoom によるハイブリッド開催

但し、1月、2月のみ対面で開催

10/5のみTKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加費：36,000円

参加人数：22名（内1名は12/28のみ参加）（定員20名）

企画者：中村伸一

担当委員：中村伸一

（10）子どもの心の発達セミナー（第9期）

「子ども／保護者／家族への心理的支援 一何を見て、どのように考えて、見立てていくのかー」

目 的：今年度は心理的支援の導入部分、つまり、相談申し込みから、子どもや保護者との最初の出会い、そして、その後のセッションを通して、子ども、保護者/養育者、親子家族の心理的なテーマをどのように見立てていくのか、また、誰にどのような支援やセラピーを提供することが助けになるのかについて、あらためて考え、学ぶ機会になればと思いました。受講生がより主体的に学ぶことができるよう、受講者どうしが小グループでディスカッションできる時間も設けました。

対 象：医療、教育、福祉、司法領域、及び近接領域の専門家、大学院生。事例の守秘を遵守できる方。事例の守秘を守ることができる環境でオンライン受講できる方。

講 師：松本拓真・岩宮恵子

司 会：脇谷順子

開催日時：1回目 9月8日（日）13:00~17:00

2回目 2月11日（火・祝）13:00~17:00 2回参加希望の方を優先します。

開催場所：オンライン方式

参加費：11,000円（1回のみ参加 6,000円）

参加人数：16名（2回参加 12名、1回のみ参加 4名）（定員 30名）

企画者：脇谷順子

担当委員：脇谷順子

（11）小寺臨床講読セミナー

—現代クライン派の系統的理解（V期）—：4. 精神分析的過程の理解

目的：系統的に論文講読に取り組む演習形式セミナー。メラニー・クラインは、現代の精神分析の重要な源泉の一つであり、優れた直観と観察に基づいて多くの独創的な見解を展開しました。第V期4年目の本年度は、精神分析の展開過程の諸側面を見ていくために、主に English, Ch. (2023) Melanie Klein's Narrative of an Adult Analysis と Monteiro, J. S. (2019) Long-Term Psychoanalytic Supervision with Donald Meltzer の二冊を読み進めました。前者はクラインの十数年に及ぶ成人患者の治療過程を、面接記録に基づいて初めて紹介するものであり、後者は著者のメルツァーとの十二年間のスーパーヴィジョンの記録です。

本年度からの参加も可能としました。通年で Zoom での参加が可能でした。

対象：テキストを読んで毎回参加し、年に何回かレジュメ作成と発表ができる方

講師：福本 修・平井正三（特別講師 1/10 ）

開催期間：2024年4月以降の第2金曜、原則として午後7時~10時、全12回

4/12、5/10、6/14、7/12、8/9、9/13、10/11、11/1、12/13、1/10、2/14、3/14

開催場所：オンライン開催

参加費：60,000円

参加人数：17名（定員 20名程度）

企画者：福本 修

担当委員：福本 修

(12) 小寺臨床講読ワークショップ

ーフロイトの系統的理解 (Ⅶ期)ー : 1. 精神分析の発見 (1895-1910)

目 的 : 本ワークショップでは、参加時間の中でフロイト読解を体験し、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指します。2024年度は、第Ⅶ期の初年度となります。3年間で全体をカバーする予定です。

対 象 : テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問いません。

講 師 : 福本 修 (余裕があれば時に特別講師)

開催期間 : 2024年4月以降の第三金曜、午後7時～10時、全12回

4/19, 5/17, 6/21, 7/19, 8/16, 9/20, 10/18, 11/15, 12/20, 1/17, 2/21, 3/21

開催場所 : オンライン開催

参 加 費 : 60,000 円

参加人数 : 21名 (内1名は10月から参加) (定員20名程度)

企 画 者 : 福本 修

担当委員 : 福本 修

(13) 英国独立学派の講読セミナー (第6期)

目 的 : 4年目のボラスを経て5年目から T. オグデンを取り上げ多層的な理解を深めていました。6年目は引き続きオグデンを中心に、ボラスの振り返り、他の独立学派の論文を読んでいきました。各回文献を配布し、予め割り振った担当者がテキストのレジюмеを作成しそのプレゼンテーションと他の参加者のそれぞれの文献に関する質問を中心にセミナーリーダーが全体の理解をファシリテートしました。

開催日時 : 2024年5月以降 原則第4日曜日 全10回 (10月除く)

5/26, 6/23, 7/28, 9/22, 10/27, 11/24, 12/22, 1/26, 2/23, 3/23

開催場所 : クリニックおくでら (小田急小田原線 経堂駅 徒歩5分) ハイブリッド

講 師 : 奥寺 崇

対 象 : フロイト理論の系統講義 (基礎講座、精神分析セミナー)・講読セミナーの受講経験がある専門家

参 加 費 : 40,000 円

参加人数：10名（定員：会場は最大10名）

企画者：奥寺 崇

担当委員：奥寺 崇

（14）フランスの精神分析（『精神分析・精神病理の臨床研究』第二期） （第3期）

目的：フランスの精神分析と言えば、ラカンの名前と結びつけられて語られることが多いが、それはあくまで、その潮流の一つでしかありません。その中でもアンドレ・グリーンは、ウィニコット、ビオン、ラカンを批判的に継承し、現代の精神分析理論の更新を図ったが、その困難な試みは、彼の没後は展開も継承もされないまま、忘れ去られつつあります。

本セミナーでは、アンドレ・グリーンおよびウィニコットに影響を受けたフランス語圏の分析家たちの仕事を中心に、フランス精神分析の全体像を把握することを試みました。

対象：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人

講師：十川幸司

開催日時：2024年5月～2025年3月まで月1回、原則第2日曜日 全9回（7月、11月休み）

13時30分～16時

5/12、6/9、8/11、9/8、10/13、12/8、1/12、2/9、3/9

開催場所：小寺財団第二セミナールーム

参加費：35,000円

参加人数：9名（定員10名）

企画者：十川幸司

担当委員：十川幸司

（15）精神分析の古典を読む （新規）

目的：このセミナーは、精神分析の古典、そしてそれを書いた著者たちに触れ、交わることを目標とするセミナーです。単に知識としてだけ精神分析の古典を、例えばレジュメを作って発表し合っただけ学んでも、それは著者と対話したことになりません。知識を得るための読書も必要で意味がありますが、精神分析の実践に近づこうとしている人が精神分析

の文献を読むときそれだけでは十分ではありません。

一文一文古典を訳読するなかで、グループでさまざまな理解と体験を共有しながら、精神分析の古典に近づいて行こうとすることがねらいでした。

精神分析的実践経験や訓練の水準がどのような方にも意味があるセミナーを目指しました。

対 象：精神分析の古典を読むことに興味のある臨床家

セミナーリーダー：藤山直樹

開催日時：2024年4月～2025年3月まで月1回 原則第4金曜日、全11回 （8月除く）

19:30～21:00

4/26、5/24、6/28、7/26、9/27、10/25、11/22、12/27、1/24、2/28、3/28

開催場所：藤山の個人オフィス（東京神宮前）

参加費：33,000円

参加人数：8名（定員8名）

企画者：藤山直樹

担当委員：藤山直樹

2. 単発セミナー

（1）精神分析—医学生・研修医セミナー（第17回）

目 的：臨床医をめざす医学生・研修医に、人間の心を深く見つめる精神分析の世界について、充実した内容をコンパクトに解説しました。

開催日時：2024年10月20日（日）9:30～18:00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講 師：藤山直樹・古賀靖彦・白波瀬丈一郎・高野晶・池田暁史・加茂聡子

対 象：医学生、および研修医・専攻医、（初期/後期研修医、医学部5・6年生を優先）

内 容：レクチャー

参加費：医学生6,000円、研修医8,000円

参加人数：37名（医学生8名、研修医他29名） （定員30名）

企画者：池田暁史

担当委員：池田暁史

(2) 『タヴィストックセミナー』 (第 16 回) 「自閉スペクトラムの世界」

目 的：子どもと成人の精神分析者資格を持つ Ms. Shirley B Hiscock に、自閉スペクトラムの世界について基礎概念からご講義いただき、詳細な臨床素材を通じて検証していただきました。2023 年度は子どもの事例について、2024 年度は成人の事例について解説していただきました。

開催日時：2024 年 12 月 7 日 (土) 午後 6 時～10 時

開催場所：Zoom によるオンライン開催

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方（臨床経験の多寡は問いません）

講 師：Shirley B Hiscock （英国精神分析協会児童分析家&フェロー精神分析家、
タヴィストック・クリニック、ロイヤルフリー病院+個人開業）

司 会：福本修（代官山心理・分析オフィス／長谷川病院／きしろメンタルクリニック）

討 論：木部則雄（こども・思春期メンタルクリニック／白百合女子大学人間総合学部）

通 訳：同時通訳があります

参 加 費：6,000 円

参加人数：38 名（定員 70 名）

企 画 者：福本 修

担当委員：福本 修

(3) 関係性精神療法セミナー(第 14 回) 「日常臨床における技法」

目 的：このセミナー・シリーズは、2011 年に第 1 回が開かれ、今年で第 14 回目を迎えます。

関係精神分析（関係論、関係性理論、関係性精神療法）は、対象関係論、サリバン派、コフート派、間主観性理論、自我心理学などを包括的に含み、現代のアメリカの精神分析の新しい流れを総括するものです。今年は、日々の臨床実践に役に立つようなテーマを選びました。

今日、精神分析は多種多様な考え方を包摂するものに発展しています。その中で、私たちは何らかの技法を意識的および無意識的に選択しながら日々実践にあたっています。精神分析の理論的理解が多様化する中で、精神分析的な技法の選択の問題はより複雑になりました。本セミナーでは、自己開示、頻度の問題、臨床家がピンチを迎えた時の対処技法、オンラインなどについて考察することで、関係性の観点から精神分析技法を改

めて考え直すことを試みました。

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

開催日時：2024 年 7 月 21 日（日）午前 10 時～午後 3 時

開催場所：Zoom によるオンライン開催

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

発 表 者：長川歩美（A&C 中之島心理オフィス）・富樫公一（甲南大学）

岡野憲一郎（本郷の森診療所）吾妻壮（上智大学）

司 会：岡野憲一郎・富樫公一・吾妻壮

参 加 費：5,000 円

参加人数：48 名（定員 60 名）

企 画 者：岡野憲一郎

担当委員：岡野憲一郎

（4）力動的心身症臨床セミナー（第 4 回）

目 的：2021 年から「力動的心身臨床セミナー」を開催しています。2024 年には、第 4 回として、心療内科医として心身症臨床に携わる江花昭一先生から「心身症診療における精神分析的な切り口」、林果林先生から「肥満治療における力動的視点の活用」というタイトルで、それぞれ発表していただき、心身症臨床に造詣深い医師と臨床心理士による討論を切り口に参加者との討論を行いました。

開催日時：2024 年 9 月 16 日（月・祝）13：00～16：30

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

対 象：心身症臨床に関心があり、臨床経験を有する方。

講 師：江花昭一（神奈川大学保健管理センター）

林 果林（東邦大学医療センター佐倉病院）

司 会：加茂聡子（四谷こころのクリニック）

討 論 者：高野 晶（北参道こころの診療所）

千葉ちよ（国立病院機構東京医療センター）

参 加 費：5,000 円

参加人数：25 名（定員 セミナールームでの参加は 30 名まで）

企画者：岡田暁宜

担当委員：岡田暁宜

(5) 学際的ワークショップ「精神分析の知のリンクにむけて」(第9回)「意識、無意識、AI」

目的：AI研究と脳科学研究の転換期に、精神分析の基本概念である「意識と無意識」を改めて問い直すことが、今回のワークショップの目的でした。

今回のメイン・シンポジストの渡辺正峰氏は、日本で最もラディカルな脳科学者であり、意識研究のエキスパートです。人間の意識を機械にアップロードするという大胆な実装研究を提示した『脳の意識 機械の意識』は大きな話題を呼びました。精神分析側のシンポジストとしては、ニューロサイコアナリシスを牽引する精神科医で、言語学的な観点から精神疾患にアプローチしている久保田泰考氏、精神分析家でありつつも、並行して脳内免疫細胞ミクログリアの生物学研究も行っている加藤隆弘氏をお招きしました。指定討論は、解離研究の第一人者であり脳科学にも造詣が深い岡野憲一郎氏が担当されました。

開催日時：2024年10月14日(月・祝) 13:00~17:00

開催場所：小寺財団第一セミナールームおよびZoomウェビナーのハイブリッド開催

対象：精神分析に関心をもつ方はどなたでも参加できます。

発表者：渡辺正峰(東京大学大学院工学研究科)

：久保田泰考(滋賀大学保健管理センター)

：加藤隆弘(九州大学大学院精神病態医学)

討論者：岡野憲一郎(本郷の森診療所/京都大学)

司会：藤山直樹、十川幸司(個人開業)

参加費：4,000円

参加人数：27名(定員100名(会場30名まで))

企画者：十川幸司

担当委員：十川幸司

(6) 初回面接入門：力動フォーミュレーションとビデオ録画 (第5回)

目的：本セミナーは初回面接におけるロールプレイとビデオ録画の共有、それに関するディスカッションを行い、見立てのための力動フォーミュレーションを同時に行って、これら

の穴を埋めるための試みです。見立てをたてながら初回面接をどう組み立てていくのか、あるいは逆に面接の中でわかることはケースの見立てにどのような影響を及ぼすのかななどを議論して、最後に面接のやりとりとケース概要からわかることを立体的に組み合わせる試みを行いました。今年度は事前に「初回面接」についての総論的な講義をオンデマンドで提供しました。

対 象：精神分析的な心理療法家を目指す臨床家の方々

開催日時：2025 年 3 月 20 日（木・祝）10：00～16：30

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講 師：妙木浩之・筒井順子・山崎孝明

司会・進行：加茂聡子

参 加 費：8,000 円

参加人数：会場 14 名 オンライン 16 名（定員 会場 15 名、オンライン 15 名）

企 画 者：妙木浩之

担当委員：妙木浩之

（7）ウィニコットの「治療相談」を読む「スクイグル技法について考える：神経症編」（新規）

目 的： 本セミナーで、ウィニコットのスクイグル技法、特に神経症的な事例について紹介・議論しました。スクイグル技法は、ウィニコットが最晩年に到達した方法 **Therapeutic Consultation**、邦訳されている本『子どもの治療相談』を通して読む、しか到達の方法がありません。この本をいろいろな視点を通して読み、スクイグルについての理解を深めるためのセミナーです。今年は、本の前半、神経症や臨床的なスポット使用の事例を取り扱いました。

対 象： スクイグル技法に関心がある、あるいはウィニコットの考え方に関心がある方。

各自『子どもの治療相談』（岩崎学術出版）をお持ちください。

開催日時：2024 年 12 月 22 日（日）10：00～16：30

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講 師：妙木浩之（東京国際大学）

参 加 費：6,000 円

参加人数：32 名（会場定員は 20 名）

企画者：妙木浩之

担当委員：妙木浩之

(8) 転移焦点化精神療法によるケースフォーミュレーション (新規)

目的： 本セミナーはオットー・カンバーグらがエビデンスに基づいて開発した転移焦点化精神療法 (Transference Focused Psychotherapy : TFP) によるケース理解、病態評価 (アセスメント) とそのフィードバックの行い方、治療枠の作り方、治療戦略の練り方、here and now における転移分析および介入の仕方を概説し、受講生が TFP の要素を取り入れたケースフォーミュレーションを行えるようになることを目指しました。

対象：臨床心理士・公認心理師・心理臨床系の大学院生・精神科医

開催日時：2024 年 8 月 10 日 (土) 10 : 00 ~ 16 : 00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講師：鳥越淳一 (開智国際大学・南青山心理相談室)

参加費：6,000 円

参加人数：会場 8 名 オンライン 13 名 (定員：会场上限 20 名・Zoom 参加制限なし)

企画者：鳥越淳一

担当委員：妙木浩之

3. 特別企画

土居健郎生誕 100 周年記念シンポジウム

目的： 土居健郎は日本の精神分析の歴史でおそらく国際的に最も貢献が知られている精神分析家です。土居の「甘え」理論は国際的な評価を得て、IPA のシガニー賞を受賞し、『『甘え』の構造』は海外でも広い読者を獲得しました。土居は「甘え」概念を、人間のこころを解き明かす鍵概念として大きな重要性をもつものとして発想しました。しかし、すでに土居の警咳に接したことのない世代が中堅として活躍しています。いま「甘え」概念と「甘え」理論は私たちの精神分析的な思考と実践にどのように生きているのでしょうか。今後、どのように生き続けることができるのでしょうか。このタイミングで、土居の貢献をとらえなおすことは意味があると思い企画しました。

発表者は土居と直接触れたことのない世代から選び、討論者は土居とさまざまな形で接

点のあった方々をお願いいたしました。興味深い議論が交わされたと感じます。

本セミナーは 2020 年 11 月に開催を予定していましたが、COVID19 の感染拡大のため延期を宜なくされましたが、2024 年 7 月 7 日に開催されました。

対 象： 土居健郎の業績に関心のある方はどなたでもご参加可能。

開催日時： 2024 年 7 月 7 日(日)13 時から 17 時

開催場所：明治記念館

参 加 費：5,000 円

参加人数：一般 78 名、 ご招待 39 名

発 表 者：上田勝久、藤内栄太、西見奈子、吉村聡

討 論 者：大橋一恵、相田信男、北山修、奥寺崇

司 会：松木邦裕、藤山直樹

Ⅱ．出版・広報事業

ホームページの充実、名簿の整理及び今後のメールによる情報発信の準備

財団が過去に行ったセミナーの内容をもとにした出版の構想、など。

担 当：岡野憲一郎